

闘争心理のみに傾くな

労働者の在り方は 小柳常磐内郷礦務組 聯本部書記長に聴く

われわれの労働組合の足跡は生業を破壊し自主的な労働組合政府を樹立しなければならぬと活の確保のみに重点を置き其方の育成によつて民主主義的な思想、斯くてこそ正しく明るい向に猛烈な運動を展開し稍々も平和国家平和民族としての機構を一新することであると思はれる。一方的傾いたのではないが、労働組合はこの理念と本質とを反問する、現在の歩む労働組合を正確に把握して中庸の道を力強く歩むことではなければならぬ。理性を失つた徒らな闘争や不感行動は平和建設の意義に對する反動と見做されても解解の意、聯合國が我等に組合の組織と推進を推奨する所以のものに余地はない、資本家も保守的な觀念や舊制度を自ら抛棄し労働者も従來の消極的な弱々しい觀念を打破し建設の先頭に立つて全身全霊を打ち込んで行く氣迫をむとせよ。これは資本主義的な保持しなればならぬと思ふ。

飽迄労働者のもの

常に戦ひ得る準備を整へよ

たゞこゝに一言注意すべき問題は組合は飽くまで労働者の爲の組合であるから御用組合であつてはならず、幹部もグラブの汚名を着るやうな事になつてはならない、一旦労働間に於ける對立的問題が発生した場合組合の輿論と決議を代表して戦ひを交へる強い意志とそれに應ずる對策は日頃準備して置くべきである、最悪の場合には罷業も生産管理もゼネストも直ちに實行しても狼狽するやうな事はあつてはならず、正當なる要求貫徹の爲には恐れることなく堂々と對戦することである、最後は一筆加へて置くことは組合の眞の發展と健全な育成は之れからが大切である、所謂政治的方面の問題に對し常に注目し研究討議しそれによつて一歩前進することである。

戦線の統一 刻下の急務

これらに對する組合としての強力な組織機構を整へなければならぬ、即ち、産業別全國的統一組合の結成或は労働戦線の全國的統一の促進等は早急に成立すべきを痛感するのである、今後も組合の必要なる議案を相立て組合の向上を謀ると共に

現在の重要課題とは

政治の動きに注意 現在の最も重要課題として先

今週の映画 敵の衆民

東寶映畫「民衆の敵」(今井正演出、花柳小菊、藤田進主演)は十三日から平市繁榮館に上映される、脂粉と札束に明暮する財閥獨裁者の生活を中心に金と細情との戦ひを描いた映畫として興味深い。

平市長に望む

平市長が首頭取つて食糧對策協議會を組織すること、至極結構なことであり、

くはなかつたが、老職長安藤達は労働者の爲に止まることを決意しました。大東財閥の獨裁者小川、工場機械が破損したが、谷理事長(志村喬)は日本の勝敗に拘らず財閥社會支配力の強化政策をとつてゐた。花園子(江川宇禮雄)は或る野心をもつて化學部門を支配する傍ら、豪壯なクラブを經營して軍官政財の指導者を集め、奢侈歡樂の醜行爲を平然と行つて居た、そのクラブに働いてゐたのがみどり(濱田百合子)であつた、享樂主義のみどりは言ひ寄る男から男へと上手に泳いで行くのだつたが、クラブの表面的經營者である、はるみ(花柳小菊)は花園に操られてクラブ内で入手した情報を提供した、銀行經營者であつたはるみの父は以前小谷の政界の爲に破産自殺したが、眞實の父は小谷である事を薄々感じてゐた。事實を識つてゐる花園は、はるみと結婚することによつて大東財閥の勢力を自己に轉換されることを夢見て居る工場には拂ひ下げになつた軍人等が重要位置につき、茂の工場は名のみで、低賃銀で採取使される徴用工の代表である大塚(藤田進)は財閥に反抗して居た、彼は安藤の一人娘たえ子(河野幸子)と言ふ戀人があつた、工場に雇はれて居る安藤は本

花放される。小谷ははるみと親娘の名乗りをしたあとで、戦争犯非者として拘留されるのだつた。然しはるみは肉親の小谷の卑性を憎み、花園の愛も退けて茂の懐へ飛びこんで行くのだつたが、彼女が工場を見たものは機械修理工のため、茂、大塚、安藤へ子達が心命を賭して修理に挺身する高尚な姿であつた。

シツとしてゐる間に異様な悪寒が身の廻りに忍び寄つて来るのを感じて、死の手が自分の身に觸れてゐることを知つた。その刹那に、少年の頭にはヴェヌスの言葉が雷光の如くに閃いた。それはこの少年の胸に初めて生れた愛の閃きであつた。生命よりも、時よりも死そのものよりも強い、不滅の閃きであつた。女神は身を屈めて雪のやうな髪を少年の頭へさし入れた時に、生命の炎はかすかな光をあげて女神の愛を受入れるかのやうに少年はその冷たい唇を動かした。その冷えてゆく唇が女神の熱い唇に觸れてゐる間に、アドニスとヴェヌスは永久にこの世を去つた。

戀人の再生の望みを得られぬと知つた時、女神ヴェヌスは懐しさに叫んだ。『この悲しい思ひ出は永久に消えることはない。アドニスは年毎に新に生まれるから、お前の血は花となつて永久に残るだらう』

希臘神話から

ヴェヌスとアドニス

少年の豪語を聞いた女神は顔色を變へた、そしてその夕暮谷の方へ下つて行く戀人の姿を見送らなかつた、心の中は明日の獵の事が氣になつて堪らなかつた。やがて女神は白鳥に捉せられた車を驅つて空を越けてゆく間、ヴェヌスの車は疾風の如くに空を横切つてアドニスの野へ降つた。踏みこじられた草の中に、はるみはあちこちに手を負つて倒れた。大穴に交つてアドニスの美しい身体は大理石の彫像にも似て静かに草の上に横つてゐた。その雪のやうな太腿には怖しい怪物の牙の跡が牡丹の花のやうに、はつと口を開いて噴き出す血はあつた。草を紅に染めて、その時アドニスは目を瞑いで、

夜明けを待ちかねて女神は林の方へ車を走らせた。アドニスは命をつら如何にしても今日の日にはやめさせねばならぬ。怪物の牙の跡が牡丹の花のやうに、はつと口を開いて噴き出す血はあつた。草を紅に染めて、その時アドニスは目を瞑いで、

その時アドニスは目を瞑いで、

種々取揃へました 常盤屋時計店

一時預品金融 安値な質流品湯本ウラ町青柳

平市長に望む 平市長が首頭取つて食糧對策協議會を組織すること、至極結構なことであり、

時計メカネ 種々取揃へました 常盤屋時計店

佐治齒科醫院 山崎友太郎 佐治善正

岡田整骨院 柔道整復術師 岡田朝五郎

仁井田工場 工場主 大谷文夫

佐藤幸太郎 事務所 新田町電七・四五五

硝子類 電球 木工煉瓦製造